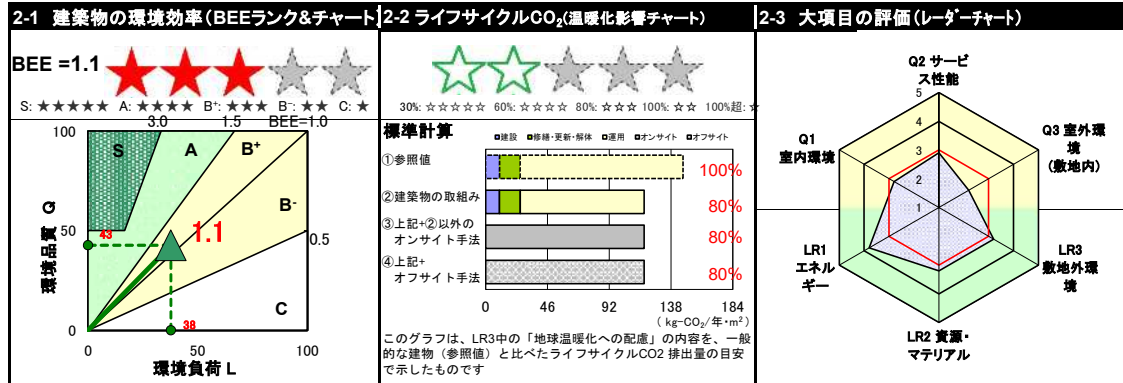
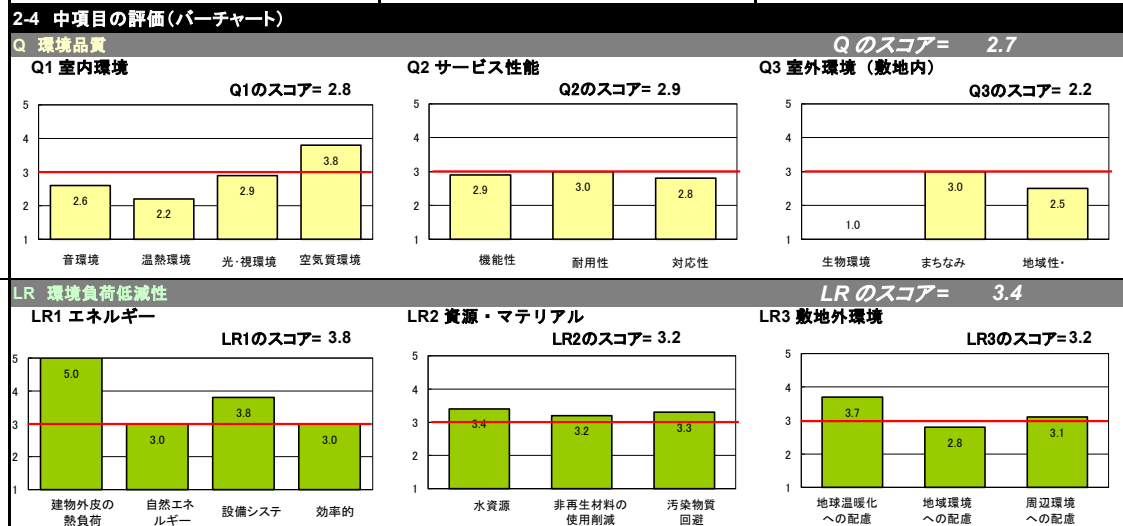


1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	オアシスいちのみや別邸	階数	地上2階、地下0階
建設地	愛知県一宮市今伊勢町宮後字宮代7-1、8-1、一宮市開明字平67	構造	木造
用途地域	地域 指定なし、防火地域 指定なし	平均居住人員	333 人
気候区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年
建物用途	病院	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2027年3月 予定	評価の実施日	2026年1月14日
敷地面積	2,388 m ²	作成者	岡 真一郎
建築面積	1,150 m ²	確認日	2026年5月29日
延床面積	2,206 m ²	確認者	岡 真一郎



3 重点項目	
①地球温暖化への配慮	③敷地内の緑化
3.7	1.0
	<p>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</p> <p>0.0 %</p> <p>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</p> <p>0.0 %</p>
②資源の有効活用	④地域材の活用
3.0	1.0
	<p><外装材に使用した地域性のある材料></p> <p>なし</p> <p><建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材></p> <p>なし</p>

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮

LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用

Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性

LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化

Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$



CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き
オアシスいちのみや別邸

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

欄に数値またはコメントを記入

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄						建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目		独自基準	重点項目							評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数	
Q 建築物の環境品質																2.7
Q1 室内環境												0.40			-	2.8
1 音環境										0.4	2.6	0.15	2.6	2.6	1.00	2.6
1.1 室内騒音レベル										3.0	3.0	0.40		3.0	0.40	
1.2 遮音										0.4	3.0	0.40		3.0	0.40	
1 開口部遮音性能										-	3.0	0.40		3.0	0.30	
2 界壁遮音性能										-	3.0	0.60		3.0	0.30	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)										-	-	-		3.0	0.20	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)										-	-	-		3.0	0.20	
1.3 吸音										-	1.0	0.20		1.0	0.20	
2 温熱環境										0.3	2.0	0.35	2.6	2.6	1.00	2.2
2.1 室温制御										0.5	3.0	0.50	3.0	3.0	0.50	
1 室温										3.0	3.0	0.38		3.0	0.57	
2 外皮性能										3.0	3.0	0.25		3.0	0.43	
3 ゾーン別制御性										3.0	3.0	0.38		-	-	
2.2 湿度制御										3.0	1.0	0.20		1.0	0.20	
2.3 空調方式										3.0	1.0	0.30		3.0	0.30	
3 光・視環境										0.2	2.6	0.25	3.6	3.6	1.00	2.9
3.1 屋光利用										0.3	1.8	0.30	4.2	4.2	0.30	
1 屋光率				宿泊部分: 1.25% ≤ [屋光率]						3.0	1.0	0.60		5.0	0.60	
2 方位別開口										-	-	-		-	-	
3 屋光利用設備										3.0	3.0	0.40		3.0	0.40	
3.2 グレア対策										0.3	3.0	0.30	4.0	4.0	0.30	
1 屋光制御				カーテンレールと庇を合わせることでグレアを制御します。						5.0	3.0	1.00		4.0	1.00	
3.3 照度										3.0	3.0	0.15		3.0	0.15	
3.4 照明制御										3.0	3.0	0.25		3.0	0.25	
4 空気質環境										0.2	3.9	0.25	3.7	3.7	1.00	3.8
4.1 発生源対策										0.5	4.0	0.50	4.0	4.0	0.63	
1 化学汚染物質				JIS・JAS規格のF☆☆☆☆をほぼ全面的に採用している。						3.0	4.0	1.00		4.0	1.00	
4.2 換気										0.3	3.0	0.30	3.3	3.3	0.38	
1 換気量										3.0	3.0	0.50		3.0	0.33	
2 自然換気性能				自然換気有効開口面積が居室床面積の1/15以上。						3.0	-	-		4.0	0.33	
3 取り入れ外気への配慮										3.0	3.0	0.50		3.0	0.33	
4.3 運用管理										0.2	5.0	0.20		-	-	
1 CO ₂ の監視										3.0	-	-		-	-	
2 喫煙の制御				ビル全体の禁煙が確認されている。						3.0	5.0	1.00		-	-	
Q2 サービス性能										-	-	0.30		-	-	2.9
1 機能性										0.4	2.4	0.40	4.0	4.0	1.00	2.9
1.1 機能性・使いやすさ										0.4	3.0	0.40	5.0	5.0	0.60	
1 広さ・収納性				個室14.4㎡/床以上。						3.0	-	-		5.0	1.00	
2 高度情報通信設備対応										3.0	-	-		-	-	
3 バリアフリー計画			独自							3.0	3.0	1.00		-	-	
1.2 心理性・快適性										0.3	1.0	0.30	2.5	2.5	0.40	
1 広さ感・景観 (天井高)				宿泊部分: 天井高2.5m以上。						3.0	-	-		4.0	0.50	
2 リフレッシュスペース										3.0	-	-		-	-	
3 内装計画										3.0	1.0	1.00		1.0	0.50	
1.3 維持管理										0.3	3.0	0.30		-	-	
1 維持管理に配慮した設計										3.0	3.0	0.50		-	-	
2 維持管理用機能の確保										-	3.0	0.50		-	-	
2 耐用性・信頼性										0.3	3.0	0.31	-	-	-	3.0
2.1 耐震・免震・制震・制振										0.4	3.0	0.48		-	-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)										3.0	3.0	0.80		-	-	
2 免震・制震・制振性能										3.0	3.0	0.20		-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数										0.3	3.3	0.33		-	-	
1 躯体材料の耐用年数										-	3.0	0.23		-	-	
2 外壁仕上材の補修必要間隔			②							-	3.0	0.23		-	-	
3 主要内装仕上材の更新必要間隔										-	3.0	0.09		-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔										-	3.0	0.08		-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔				給水VP(B)、排水VP(B)、通気VP(A)、Eは不使用。						-	5.0	0.15		-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔										-	3.0	0.23		-	-	
2.4 信頼性										0.1	2.6	0.19		-	-	
1 空調・換気設備										3.0	3.0	0.20		-	-	
2 給排水・衛生設備										3.0	2.0	0.20		-	-	
3 電気設備			②							3.0	3.0	0.20		-	-	
4 機械・配管支持方法										3.0	3.0	0.20		-	-	
5 通信・情報設備										3.0	2.0	0.20		-	-	

3 対応性・更新性				0.2	2.9	0.29	2.6	2.6	1.00	2.8
3.1 空間のゆとり			②	0.1≦[壁長さ比率]<0.3	0.3	2.2	0.31	2.2	2.2	0.50
1	階高のゆとり	-			1.0	0.60		1.0	0.60	
2	空間の形状・自由さ	3.0			4.0	0.40		4.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり					3.0	3.0	0.31		3.0	0.50
3.3 設備の更新性					0.3	3.4	0.38	-	-	-
1	空調配管の更新性	-			3.0	0.17	-	-	-	
2	給排水管の更新性	3.0			3.0	0.17	-	-	-	
3	電気配線の更新性	3.0			5.0	0.11	-	-	-	
4	通信配線の更新性	3.0			5.0	0.11	-	-	-	
5	設備機器の更新性	3.0			3.0	0.22	-	-	-	
6	バックアップスペースの確保	3.0	3.0	0.22	-	-	-			
Q3 室外環境(敷地内)				-	0.30	-	-	-	2.2	
1 生物環境の保全と創出			独自③		1.0	0.30	-	-	1.0	
2 まちなみ・景観への配慮			独自④	-	3.0	0.40	-	-	3.0	
3 地域性・アメニティへの配慮				0.3	2.5	0.30	-	-	2.5	
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			独自④	-	3.0	0.50	-	-		
3.2 敷地内温熱環境の向上				-	2.0	0.50	-	-		
LR 建築物の環境負荷低減性					-	-	-	-	3.4	
LR1 エネルギー				-	0.40	-	-	-	3.8	
1 建物外皮の熱負荷抑制				BPIm=0.67	3.0	5.0	0.30	-	5.0	
2 自然エネルギー利用					3.0	3.0	0.20	-	3.0	
3 設備システムの高効率化				BEIm=0.76	3.0	3.8	0.30	-	3.8	
4 効率的運用					0.2	3.0	0.20	-	3.0	
集合住宅以外の評価					1.0	3.0	1.00	-		
4.1 モニタリング					3.0	3.0	0.50	-		
4.2 運用管理体制					3.0	3.0	0.50	-		
集合住宅の評価					-	-	-	-		
4.1 モニタリング					-	-	-	-		
4.2 運用管理体制					-	-	-	-		
LR2 資源・マテリアル				-	0.30	-	-	-	3.2	
1 水資源保護				0.1	3.4	0.15	-	-	3.4	
1.1 節水				3.0	4.0	0.40	-	-		
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				0.6	3.0	0.60	-	-		
1				3.0	3.0	0.67	-	-		
2				3.0	3.0	0.33	-	-		
2 非再生性資源の使用量削減				0.6	3.2	0.63	-	-	3.2	
2.1 材料使用量の削減			② 独自	- 断熱材	-	-	-	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用					-	3.0	0.26	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用					-	3.0	0.22	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用					3.0	3.0	0.22	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材					3.0	2.0	0.05	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み					3.0	4.0	0.26	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避				0.2	3.3	0.22	-	-	3.3	
3.1 有害物質を含まない材料の使用				3.0	3.0	0.32	-	-		
3.2 フロン・ハロンの回避				0.6	3.5	0.68	-	-		
1				-	-	-	-	-		
2				-	4.0	0.50	-	-		
3				3.0	3.0	0.50	-	-		
LR3 敷地外環境				-	0.30	-	-	-	3.2	
1 地球温暖化への配慮			①	ライフサイクルCO2排出率80%	-	3.7	0.33	-	3.7	
2 地域環境への配慮				0.3	2.8	0.33	-	-	2.8	
2.1 大気汚染防止				-	3.0	0.25	-	-		
2.2 温熱環境悪化の改善				-	3.0	0.50	-	-		
2.3 地域インフラへの負荷抑制				0.2	2.5	0.25	-	-		
1			独自	-	3.0	0.25	-	-		
2				-	3.0	0.25	-	-		
3			独自	-	3.0	0.25	-	-		
4				-	1.0	0.25	-	-		
3 周辺環境への配慮				0.3	3.1	0.33	-	-	3.1	
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				0.4	3.0	0.40	-	-		
1			独自	-	3.0	1.00	-	-		
2			独自	-	-	-	-	-		
3				-	-	-	-	-		
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制				0.4	3.0	0.40	-	-		
1				-	3.0	0.70	-	-		
2				-	-	-	-	-		
3				-	3.0	0.30	-	-		
3.3 光害の抑制				0.2	3.7	0.20	-	-		
1				-	4.0	0.70	-	-		
2				-	3.0	0.30	-	-		

重点項目スコアシート

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE:建築(新築)2016年版+あいち版手引き

オフィスいちのみや別邸

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				3.7
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.7	0.10	3.0
② 資源の有効活用				
Q2-2	耐震性・信頼性	3.0	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	2.9	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.2	0.19	
③ 敷地内の緑化				1.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.09	外構緑化:0%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用		(評価ポイント)		1.0
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

環境設計の配慮事項

■建物名称 オアシスいちのみや別邸

計画上の配慮事項	
総合	<p>利用者に配慮し、F☆☆☆☆を使用している。 主要給排水配管は耐用年数が高い材料を使用している。 ライフサイクルCO2排出率の低減に努め、地球環境保護に配慮している。</p>
Q1 室内環境	<p>宿泊部分: $1.25\% \leq [\text{昼光率}]$ 自然換気有効開口面積が居室床面積の1/15以上。</p>
Q2 サービス性能	<p>宿泊部分: 天井高2.5m以上。 $0.1 \leq [\text{壁長さ比率}] < 0.3$</p>
Q3 室外環境(敷地内)	<p>特になし。</p>
LR1 エネルギー	<p>BPI_m=0.67 。 BEI_m=0.76 。</p>
LR2 資源・マテリアル	<p>節水コマなどに加えて、節水型便器も採用している。 LGS使用している。</p>
LR3 敷地外環境	<p>ライフサイクルCO2排出率80%</p>
その他	<p>特になし。</p>